

ペルー 北部の大雨でブドウとマンゴーの生産者が懸念

FreshFruitProtal 2023年4月12日

ペルー北部、特にトゥンバス県とピウラ県では、生産者とアドバイザーが2月下旬以降に繰り返し降った雨を懸念している。彼らは、真菌類 (fungi) と害虫が、2023-24年度の生食用ブドウとマンゴーに、特に果実の収量と品質に関して深刻な結果をもたらす可能性があるかと警告している。

生食用ブドウの生産者らはカビ (mildew) の激しい蔓延に対処しようと取り組んでいるが、白星病 (white scab) に対する防除計画は無視されている。

マンゴーについては、炭疽病 (anthracnose) が懸念されている。

ペルー・マンゴー輸出業者協会 (APEM) のセサル・モロチョ会長は、影響を受けた地域はカスマ地域 (アンカシュ県) であると言ひ、これらの雨が次のシーズンに影響を与えるだろうと述べた。

モロチョ会長は、植物の自然な生育が影響を受けたため、収穫に2~3週間の遅れが生じるだろうと指摘している。

2つ目の問題は、大量の降雨により、さまざまな真菌の胞子が多数発生し、植物に付着していることである。

同会長は、「昨シーズンは価格の下落のために生産者にとって良い年でなかったというのに、今年はこれが起こっている。これによって、一部の生産者は果実の管理が一層難しくなり、品質に影響が出る可能性がある」と言う。

モロチョ会長は特に炭疽病菌について懸念しており、「健全な果実は摂氏10度未満のコンテナで輸送されるが、これは、炭疽病が発現するのに適した条件である。そのため、きれいな状態のマンゴーを送送することはできるが、目的地に到着した時には果皮に黒い斑点がたくさん出ている」と述べた。

生食用ブドウ

生食用ブドウの植物検疫アドバイザーであるホセ・レイス・フアレス氏は、ピウラ県と国の北部の他の一部地域で不安定な天候によりブドウの木にべと病 (downy mildew) が大量に発生しており、出荷シーズンを通して問題を引き起こすだろうと述べている。

そのため、生産者らはこの状況に対処するために農薬を用いることとなった。しかし、フアレス氏は、この一つの火を消すことによって、生産者らが将来の別の火を点けることになるかもしれないという懸念を述べた。

同氏は、「すべての防除機器は真菌類の防除に特化しているため、ヨコバイ (害虫 white leafhopper) は効率的に防除されず、後で被害を引き起こすことが予想される」と指摘した。

同氏はさらに、ヨコバイの防除は通常、房の形成期であるこの時期に実施されるとして、その後は残留の問題があるため農薬はあまり使えない、より進んだ段階で使用する代替成分が必要な場合、それらは十分な有効性を持たないだろうと述べ、「もし房の形成期にうまく防除できず、ヨコバイが多くいる状態で出荷シーズンが始まると、房の被害が増えて出荷量が減少する」と警告する。